

## 園芸タイムリー情報 《5月中～6月上旬版》

令和5年5月24日発行 第1号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

### 全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ  
平年並みの見込みです。

- ①ハウス・トンネルは、気温の日格差が大きい時期であるため、温度・水分  
管理に注意するとともに、急な強風、低温や降霜があるため、気象情報に  
注意しましょう。
- ②ハウスは、換気時間に注意し、夜間の温度が確保できるようにしましょう。  
温度が急速に低下するときは、湿度が高まり、病害発生要因となるため、  
モヤ抜き換気を行いましょ。
- ③ほ場の準備が遅れている場合は、苗の順化や適切な養水管理を行い、老  
化苗にならないよう注意しましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前  
日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆育苗ハウス内で農薬をペーパーポットやセルトレイにかん注処理または、粉剤や粒剤  
を処理した場合は、後作物の栽培を避けましょ。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と  
合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制ましょ。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、  
愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和5年5月10日現在の登録内容となっていますので、  
活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いましょ。

## ■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【農作業安全編】 —農作業を安全に行うために—

- 作業予定を事前に確認し合い、無理のない作業計画を立て、事故防止に努めましょ。
- 一人での作業はできるだけ行わないようにましょ。  
やむを得ず一人で作業する場合は、作業内容や作業場所を家族等に伝えておく、  
携帯電話を必ず所持する等、事故が発生した場合の早期発見のために必要な措置を  
行いましょ。
- 緊急時に備え、作業員全員にエンジン停止方法や作業機械の動力遮断方法を周知  
ましょ。
- 農業機械の移動に伴う公道走行は、灯火器類の取付など法令を遵守し、路肩や電線  
に注意し、安全運転に努めましょ。

作物名

ピーマン・ししとう・なんばん

病虫害  
 生理障害名

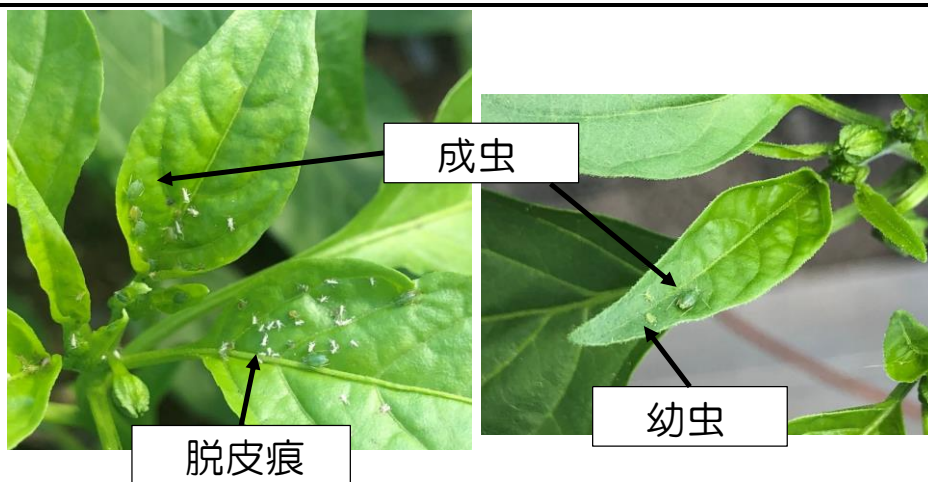
アブラムシ類

発生状況

発生に注意

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・モモアカアブラムシの発生が見られている。
- ・モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。

対策

- ・多発すると防除が困難になるので、生長点付近をよく観察し、初発を見逃さないよう努める。
- ・生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、散布は丁寧に行う。

＜防除の一例＞カブリダニ類の導入時にも使用可能

ピーマン

- ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内
- トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

ししとう・なんばん（とうがらし類）

- スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

トマト・ミニトマト

病虫害  
生理障害名

灰色かび病

発生状況

発生に注意

発生時期

6月上旬



がくから感染した  
発病果実



葉の病斑とかび

### 発生の状況・要因

- 曇天が続き湿潤な天候が続く場合は、予防的な防除が必要である。
- 昼夜の温度差で、茎葉や果実が結露すると発生しやすくなる。

### 対策

- 結露が発生した際は速やかに換気して除湿する。
- 枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- 葉数が確保されたら、下葉を除去して通気性を確保する。

＜防除の一例＞


予防散布で効果の期待できる剤

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで  
トマト（直径3cm以下を除く）：4回以内  
ミニトマト：2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤  
2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

<b>作物名</b>	<b>あぶらな科野菜全般</b>	
<b>病虫害 生理障害名</b>		
キスジノミハムシ		
<b>発生状況</b>		
やや多い		
<b>発生時期</b>	キスジノミハムシ成虫 (体長2～3mm)	こまつな葉部食害
5月中旬～		

### 発生の状況・要因

- 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。
- 5月下旬～6月は成虫の発生に注意する。

- 成虫期間：1～4カ月
- 卵期間：5～7日
- 幼虫期間：10～20日
- 蛹期間：3～15日

### 対 策

- 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。
- 土壌施用粒剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。
- ハウス内外の雑草や作物残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。

＜防除の一例＞

こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

- フォース粒剤 4kg/10a は種前全面土壌混和 1回

チンゲンサイ

- スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回

パカグサイ・ターサイ・みずな・こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

- モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

あぶらな科野菜全般

病虫害  
生理障害名

コナガ成虫



コナガ

発生状況

多い

発生時期

既発  
(4月下旬～)

コナガ幼虫



幼虫による葉の被害



発生の状況・要因

- 成虫は例年より発生時期が早く（4月下旬～）、発生量も多く推移している。
- あぶらな科ほ場への飛来、産卵が活発化し、幼虫の初発生、食害の早期化も予想される。

対策

- ほ場の観察に努め、初発を逃さないよう防除を開始する。
- 防虫ネットを、侵入口となる隙間を作らないように設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。